



ブラジル日本移民 110 周年記念式典 挨拶

皆様、こんにちは。私は今、移民としてこの地に来た、幼い頃の思い出で胸を一杯にし
ながら、この日のために、日本、アメリカ合衆国、ハワイ、パラグアイ、ペルー、アルゼンチ
ン、ボリビア、メキシコ、そして、ブラジル全土の各州から、何日も何時間もかけて、この
場においでくださいました、皆様お一人お一人に、心からの感謝と、歓迎の意を表します。

そして何より、眞子内親王殿下、ようこそおいで下さいました。ブラジル日本移民を祝
賀するこの式典に、再び、皇族の方のご臨席を賜れますことは、幸甚の至りでございます。
この機に、美智子皇后陛下が、1998年の「歌会始め」において、その前年に御訪問下
された、ブラジルを思いながら詠まれたお歌に、触れてみたいと思います。

移民きみら 辿りきたりし 遠き道に イペーの花は いくたび咲きし

このお歌は、20年前に詠まれたもので、私たちブラジル移民に対する、深いお心遣いと
愛情が、表されております。

私たちが、感謝の気持ちを持って準備したこの祭典に、本日、このように多くの方にお
いでいただき、大変嬉しく思います。私たちは、みなさまをお迎えするため、汗と涙を流
して、現在のブラジル日系社会を築き上げた、先人に感謝しつつ、その精神を手本に、そ
れぞれの立場を超え、一体となって取り組んでまいりました。

一生懸命に働く者に対して、発展するチャンスをくれた、このブラジルに感謝いたします。
記念祭典事業に対し、募金活動に御協力下さった、多くの企業と個人のみなさま、ありが
とうございます。協力して下さったボランティアスタッフ、ありがとうございます。



今回、ブラジル日系の子孫が、すでに6世となる中、様々な世代間やグループ間にある、考え方や意見の相違を超えるため、芸能ショー「結」を生み出しました。総勢2千人で構成されたこのショーは、全ての世代、グループを組み合わせた、いままでにない、壮大な仕上がりとなっています。そして今回の経験は、日系社会にとって、大変貴重なものとなりました。ここで得たものは、日本文化の継承と共に、受け継がれていくと確信しております。

また、ブラジル日本移民110周年のレガシーとして、サンパウロから50km離れたサンロケ市に位置する、文協所有のスポーツセンターを選びました。この設備を改善するとともに、多くのイベント開催のための、多目的施設の整備を計画しています。この場所が、将来の日系社会の繁栄はもちろん、ブラジル社会への貢献にもなるよう、位置づけています。

最後に、美智子皇后陛下のお歌にもありましたように、私たちブラジル日本移民の歩んできた道は、言葉にする事ができない程の、多くの困難がありました。何度もイペーの花が咲くのを目にする中で、いつしかその苦勞の時期もすぎさり、現在は多くの実りを感じるまでになりました。今回の祭典を通して受けた、多くの刺激によって、ブラジル日系社会が、さらに発展していく事を確信しております。本日は、まことにありがとうございました。

2018年7月21日

ブラジル日本移民110周年記念祭典委員会
祭典委員長 呉屋 春美